

平成21年9月8日
消 防 庁

平成20年救急・救助の概要（速報）

総務省消防庁では、全国の救急業務及び救助業務の実施状況等の調査を毎年実施しており、今般、その調査結果を「平成20年救急・救助の概要（速報）」としてとりまとめましたので公表します。

【資料】

[平成20年救急・救助の概要（速報）](#)



（連絡先）

救急企画室救急企画係

担当：森田補佐、梅澤係長

電話：03-5253-7529（直通）

FAX：03-5253-7539

国民保護・防災部防災課応急対策室航空係

担当：鈴木航空専門官、山本係長

電話：03-5253-7527（直通）

FAX：03-5253-7537

国民保護・防災部参事官付救助係

担当：清水補佐、大久保係長

電話：03-5253-7507（直通）

FAX：03-5253-7576

平成20年救急・救助の概要（速報）のポイント

1 救急出場件数、搬送人員ともに減少

平成20年中の救急自動車の出場件数は、前年に比べて約19万5千件減少（▲3.7%）し、約510万件でした。

また、搬送人員は、前年に比べて約22万6千人減少（▲4.6%）の約468万人となりました。

- ・ 救急自動車の出場件数及び搬送人員はそれぞれ509万5,615件（対前年比19万4,621件、3.7%減）、467万7,225人（同22万5,528人、4.6%減）でした。（図1）
- ・ 救急自動車は6.2秒（前年6.0秒）に1回の割合で出場しており、国民の27人（前年26人）に1人が搬送されたこととなります。
- ・ 現場到着までの時間は全国平均で7.7分[※]（前年7.0分）となっています。（図2）
- ・ 病院収容までの時間は全国平均で35.1分^{※※}（前年33.4分）となっています。（図2）

※、※※

平成20年分の救急出場事案から現場到着時間等を計測する際の開始時刻について、救急隊への出場指令時刻から119番通報入電時刻に変更する等の調整を行っている本部があるため、見かけ上の時間が延びており、この影響を除くと現場到着時間は7.2分、病院収容時間は34.5分となります。

図1 救急出場件数及び搬送人員の推移

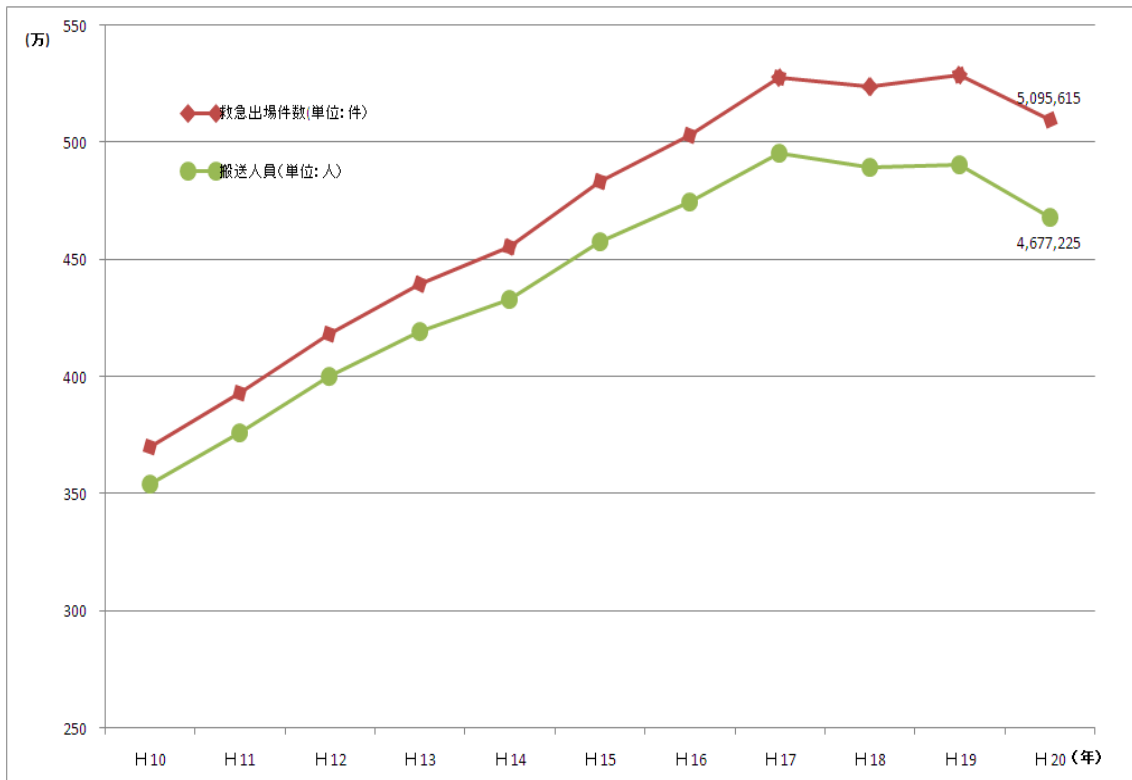
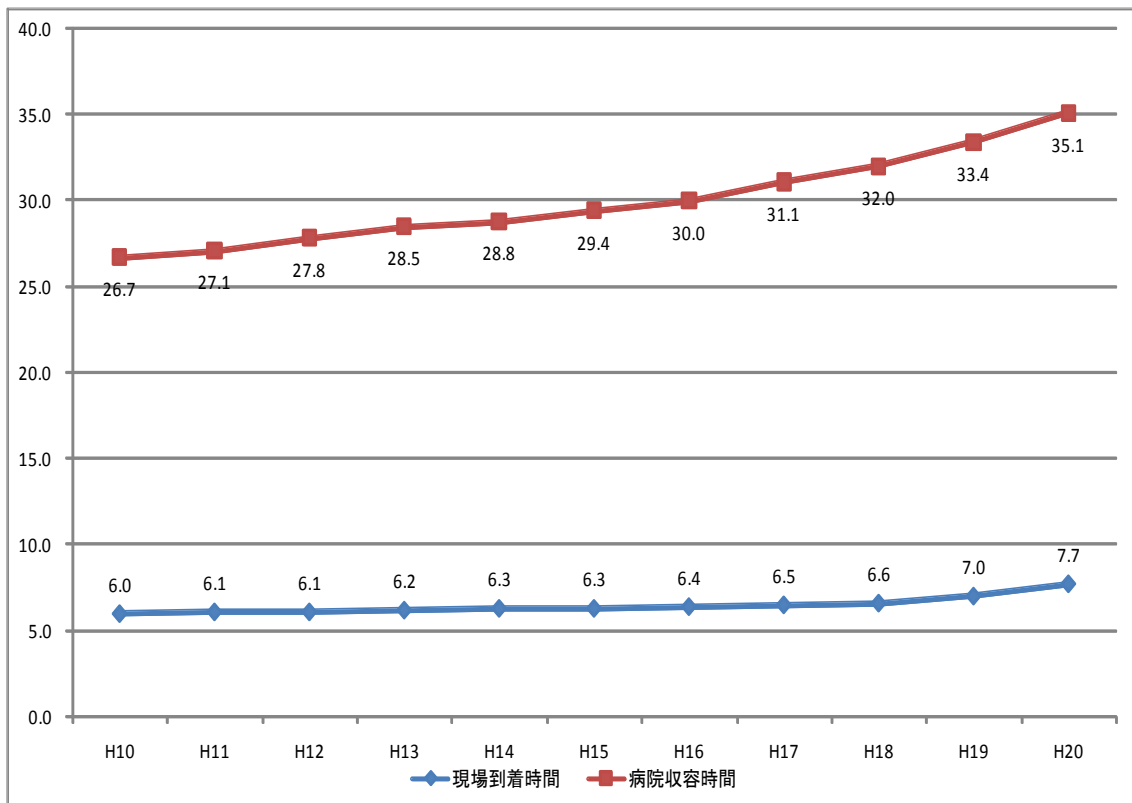


図2 現場到着時間及び病院収容時間の推移



2 救急体制の充実と救急業務の高度化は着実に進展

平成 21 年 4 月現在、救急隊数は 4,920 隊であり、救急救命士の資格を有する消防職員は 2 万 3 千人を超えています。

また、救急救命士運用隊は全救急隊の 91.1%にあたり、目標である「全ての救急隊に救急救命士が 1 人以上配置される体制」に近づくとともに、救急救命士による応急処置内容・件数も充実してきています。

- ・ 救急隊数は 4,920 隊（対前年比 49 隊、1.0%増）であり、そのうち 91.1%にあたる 4,481 隊（対前年比 171 隊、4.0%増）で救急救命士を運用しています。また、救急救命士有資格者数は 23,365 人（同 1,525 人、7.0%増）となりました。
- ・ 救急隊員（3 人以上）のうち少なくとも 1 人が救急救命士である隊は、全国 4,920 隊のうち 4,481 隊（91.1%）となり、その割合は年々高まっています。
- ・ 器具による気道確保、除細動、静脈路確保及び平成 18 年 4 月より実施可能となった薬剤投与といった救急救命士が救急救命士法に基づいて行う処置件数も合計で 92,608 件にのぼり、対前年比 9.8%増となっています。

3 市民による応急手当件数の割合は過去最高

消防機関の実施する応急手当普及講習の修了者数は年々増加し、平成 20 年中は 160 万人を超え、実際に救急搬送の対象となった心肺機能停止症例の約 40.7%において、市民により応急手当（胸骨圧迫（心臓マッサージ）・人工呼吸・AED（自動体外式除細動器）による除細動）が実施されています。

- ・ 応急手当普及講習の修了者数は、161 万 9,119 人となり、国民の 79 人に 1 人が受講したこととなります。（前年は 81 人に 1 人）
- ・ 市民による応急手当が実施された傷病者数は、全国の救急隊が搬送した心肺機能停止傷病者数の 40.7%（前年は 39.5%）にあたる 46,149 人に及んでいます。

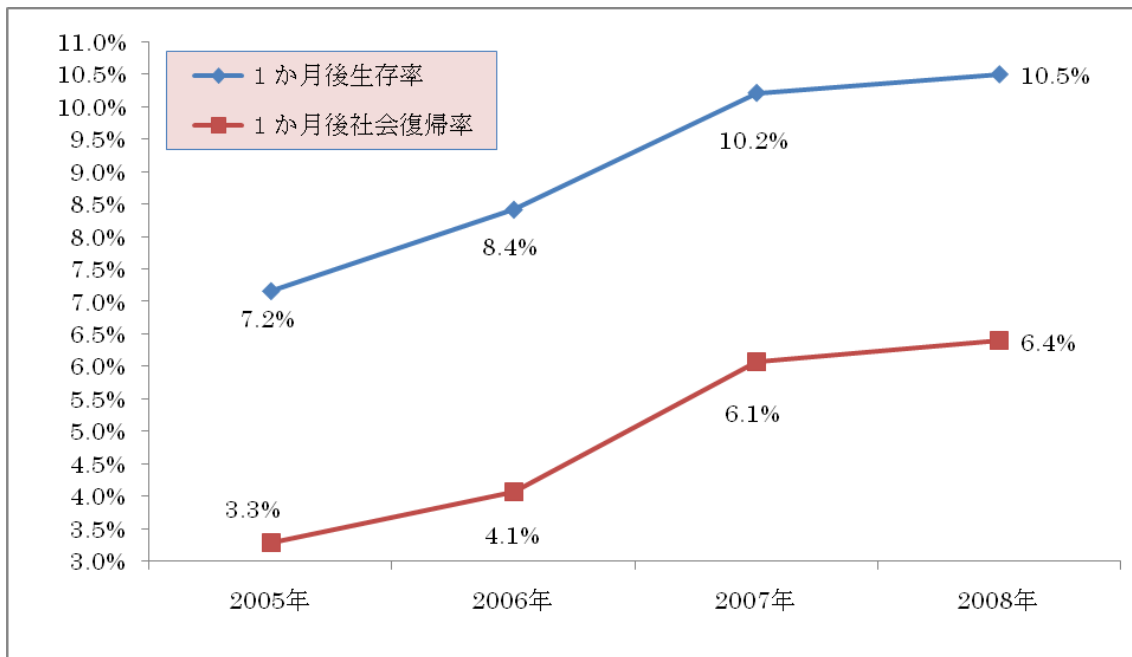
4 心肺機能停止傷病者の1か月後の生存率及び社会復帰率は年々上昇

2008年中に救急搬送された心肺機能停止傷病者のうち、心原性かつ一般市民により目撃のあった症例の1か月後の生存率及び社会復帰率は年々上昇しています。

2008年中に救急搬送された心肺機能停止傷病者のうち、心原性かつ一般市民により目撃のあった症例の1か月後生存率は、10.5%と過去4か年のうち最も高く、2005年中と比べ、約1.5倍(3.3ポイント上昇)となっています。

また、1か月後社会復帰率についても、6.4%と過去4か年のうち最も高く、2005年中と比べ、約1.9倍(3.1ポイント上昇)となっています。

心原性かつ一般市民による目撃のあった症例の1か月後生存率及び社会復帰率



5 救助出場件数は、交通事故による件数が第1位

救助出場件数のうち、交通事故による件数が第1位の割合（34.6%）を占めています。

- ・ 平成20年中の救助出場件数（救助隊が出場した件数）は、全体で8万1,554件であり、交通事故によるものが2万8,194件（全体の34.6%）で昭和55年以降、第1位の出動原因となっています。
- ・ 一方、救助活動件数（救助隊が実際に活動した件数）は、全体で5万3,295件であり、建物等による事故が1万8,065件（全体の33.9%）で、第1位の活動種別となっています。

6 消防防災ヘリコプターによる救急出場件数が過去最高

消防防災ヘリコプターによる救急出場件数は年々増加し、平成20年中は過去最多の3,276件となりました。

- ・ 平成20年中の消防防災ヘリコプターによる全出場件数は6,496件であり、そのうち救急による出場件数が3,276件（全体の50.4%、対前年比109件増）といずれも過去最多を記録しました。